佳作

今、大人に必要なもの

堀内　まほろ

「拝啓　柳田邦男様　私が大好きな絵本は『バムとケロの寒い朝』です。…この絵本には、読むたびにその絵の中に発見があって、楽しくて一ページ一ページをじっくり見ていたくなります。…柳田さんにもこの本を何度も読んでみることをお勧めします。そのたびに発見があって、見つけられると、うれしくなると思います。」

私はこんな作文を九年前に書き、第一回の柳田邦男絵本大賞の大賞を受賞しました。当時私は根っからの本の虫で、時間さえあれば本を読み、図書館には来るたびに借りられる上限だけの本を毎回総とっかえしていました。また両親の仕事の関係から自宅の本棚にはいっぱいの絵本があふれていたので、弟や妹はいませんでしたが、小学校高学年になっても絵本はよく読んでいました。

しかしそんな私も受験勉強をして中学に入り、部活や大量の宿題、試験に追われる日々となり、大学に入った今ではレポート課題に試験勉強、バイトやサークルでの毎日になりました。そして気付けばその生活に絵本どころか本の存在さえなくなっていました。

そんなときにたまたまネットで見つけたのが九年前にこの賞に応募した時の自分の作文でした。ただ単純に絵がかわいいからお気に入りのこの絵本を、柳田さんがどこのおじさんなのかもわからないけれど、絵本を紹介してほしいのなら私が教

えてあげる。そんな想いがあふれるこの作文を一度読み始めると、その時の想いが一気によみがえってきました。

だからこそ今二十歳になった私がお勧めしたい本は「バムとケロの寒い朝」です。この本の醍醐味は何といってもその作りこまれた絵の細かさと、メインストーリーに関係ないところで繰り広げられている一連のお話です。たった数コマを見るだけでくすりと笑えるような本編とは関係のないお話が、この絵本の中にはたくさんちりばめられているのです。読者がどの年代の人であれ、時間をかけてじっくり読もうと思った人に対してだけその分を面白さとして返してくれる、そんな作者のからくりが詰まっているからこの本は面白いのです。

次のページには何が描いてるのか早く見てみたい、こんな気持ちにかられる本は久々だったようにも思いました。参考書やノートばかりを繰り、わからないことはすぐにネットで調べてしまう毎日を過ごしていた私には、絵の隅々をくまなく探してかわいい絵を見つける、そんな行為が単純に楽しくて新鮮な気持ちになりました。それと同時に小さい時には当たり前のようにしていた、何もかも忘れて夢中で本の世界に没頭するということにも久々に気付かされたように思いました。「あれ？池で凍ったかいちゃんを助けるために熱々のお湯を入れたやかんを氷の上に置いたから、だんだんやかんが氷の中に沈みこんでいる？」そんなことを夢中で探している間は、試験範囲なのに解けない問題も、子供に汚された家の壁の落書きも、

理不尽な取引先とのトラブルも、増えていくばかりの常備薬も、みんな忘れていられるのではないかと思います。そんないつの間にか忘れていた少しの余裕が、今大人には必要なのではないでしょうか。

柳田さんは今そういった時間を過ごしていますか？作家さんにかける言葉としては失礼なのかもしれませんが、私はあえてそう言いたいです。大人にこそただ単に楽しいと思える絵本を繰ることが大切なのではないでしょうか。

絵本を読む年代の弟や妹があまりいなく、自分の子供やましてや孫もまだいないことの多い私の世代が、もしかすると一番絵本に触れる機会が少ないのかもしれません。そんな私の年代だからこそ絵本の持つ力をもう一度感じることができたらいいと思いますし、大好きな絵本の世界に夢中になれたあの頃を私は忘れたくないと思います。